



# 鳥見の記 散策の発見

第14回 芽吹き・新緑の春

2020.4



表紙の写真は、今春撮った岡堰さくら荘の東屋から望む紫峰筑波山、みずき野の朝のさくら坂となごり雪に震えるさくらの杜公園、そして朝もやの霞が幻想的なサクラ咲く守谷沼の光景です。

温暖化の影響による気候変動か、暖かい日が多かった今年の冬、風邪のウイルスも変化したのか、収束の見通しも立たない新型コロナウイルスが、巷を席捲する日々が続く・・・

わがみずき野も、つい先日「非常事態宣言」区域となり、「3密」回避・「原則外出禁止」のお達しがでました。この事態は、家族や友人・知人との関わりでも「3密」回避が否応なしに求められ、不自由に耐え、この見えない敵コロナを撃沈させるしかない状況のようです。

でも自然環境は普段通りに変わらず静かに時を刻み、知らぬ間に芽吹き蕾をつけて、桃・彼岸桜・こぶし、そして土手にはからしなの花が咲き、周囲は春の色と香りに包まれます。春を迎え種々の行事が制限・中止を余儀なくされた今、「赴くままに」などと悠長に構えて散策などできませんが、普段の散策を思い出しながら・・・過去の「鳥見の記」を顧みながら第14回を綴ります。

サクラ前線は、既に東北に移っていますが、今年のサクラは何時になくその美しさを長く保っている気がします。自宅謹慎の状態で家に籠っていますが、老いのせいか目覚めが早くなり、朝の陽に映えるサクラに魅せられてたびたび観桜に出かけてしまいました。



陽を浴びるソメイヨシノ



花筏か？ いや道端の水溜まり

3丁目裏のヤブや戸頭ロータリー付近の雑木林で遊ぶコジュケイ



早春は、陽が昇る前から、守谷市の市鳥「コジュケイ」が「ちよつと来〜い・チョットコイ」と鳴き始め、負けじと日本の国鳥である「キジ」の鋭い「ケン・ケェ〜ン」の鳴き声で夜が明ける気がします。

散歩に出かける頃には、カラスのダミ声とともに、「ホー・ケキョ」と上手に鳴けないウグイスのさえずりを聴き、歩きだせば戸頭駅の踏切から「カン・カン・カン」と鳴る警笛音に混じって、「チュンチュン」と連れ合いを求めて鳴き騒ぐスズメの群れを家屋の屋上に目撃します。



戸頭駅前の家庭菜園畑のキジ



ウグイス

Café hiva の前の道を取手方面へ進めば、道端や左右の種蒔き前の畑にタンポポやイヌノフグリなどの野草が咲き誇っています。春告げ鳥の異名を持つ「ヒバリ」が上空高く旋回しながら「ぴいーちゅぴ〜く・ぴいーちゅく」と2〜4分くらいさえずり続ける姿を見かけます。

畑の土魁で  
縄張り宣言  
するヒバリ



鳴きながら上昇飛行



鳴きながら旋回飛行し、急上昇



最高点で水平飛翔

最高点でホバリング状態

鳴きながら急降下



カケス

そして電話線の鉄塔のある雑木林から「ギャ〜」の一声！カケスのようです。そのまま進み坂を下り終えたところは左右が少し開けた雑草場で、冬場の探鳥に格好な場所。アオジ・カシラダカ・シジュウカラ・コゲラ・モズやジョウビタキ等々さまざまな鳥が観察できます。

そこからビジネス旅館「昇文亭」の看板を見ながら坂を上り、T字路を左に曲がり進めば、さくら坂の道路に出ます。この道は、春秋の美しい景色を見せてくれるお気に入りの散歩道です。新旧の屋敷が点在し、

垣根や大木、そして庭と空き地にウメ・椿・サザンカ・モクレン・ボケ・サクラ・アジサイ・ツツジ・もみじ・銀杏・柿の木・柑橘類等のさまざまな木々があり、季節ごとに美しい花と実を付けた姿を楽しむことができます。

そして菜園の周りや庭に目をやれば、レンギョウ・スイセン・ダイコンハナ・ニラバナ・ムスカリ・モッコウバラ・ツツジ・アジサイ等々が黄・白・赤・紫・ピンクと色鮮やかにつぎつぎと咲き誇り、四季の風情豊かな道です。



ドウダンツツジ



もみじの花



ハナミズキ



アジサイ



ラベンダー



ムスカリ

もちろん、探鳥に絶好の道でもあります。花の蜜や実を求めて飛来して、それぞれの季節に応じて観察できるスポットです。モズ・メジロ・ホオジロジョウビタキ・ヒヨドリ・シジュウカラ・コゲラ・・・そうそうカラス・ズメ・キジバトも忘れてはいけません。

この道の朝の散歩では、順光の朝陽を浴びる情景となり、芽吹いて新緑に映える春を目に、陽の温かみを背に感じられます。そして草花と周辺の邸宅の木々の花と実を求めて、誰がいつ来るのかと観察して、それぞれの季節ごとの違う楽しみを見つけています。



紅梅にモズ(メス)



白梅にメジロ



サクラにホオジロ



サクラの枝にジョウビダキ(メス)



サクラの花にヒヨドリ



シジュウカラ



コゲラ



嘴の上下が黒いオスの  
カワセミ



調整池の水に映るサクラの上を  
飛ぶカワセミ



青い目のダイサギ

サクラが散って若葉がより濃くなる頃には、さくらの杜公園に例年のようにゲートボールを楽しむみずき野の人たちが戻ってこられれば良いのにと思いつつ、第1調整池へ向かいました。そこでは、冬場あんなに多く群れていたカルガモも、春先になって7、8羽に減っています。でも、代わって、繁殖期に婚姻色の青い目になったダイサギが現れたり、時には「チー」っと一声鳴きながらさくらの杜公園の方に去って行くカワセミを見ることがあります。

この時期には、すでに南方から春告げ鳥と呼ばれるツバメが来訪してきていて、「**ピーチュク・ピーチュク・チュク・ピー**」と電線の上で絆を確認しあう2羽のツバメを見ます。やがて梅雨どきになれば調整池の水面を飛び交い、子育ての盛りの夏場には、水浴びする光景も見ることができます。



そんなこんなで午前中は、ちょっと気取って“*Stay Home*”と言いながら洒落て謹慎するも、昼食過ぎると「人に会わずに済ませばいいかっ・・・」の思いがこみ上げてきてしまいますね。そんな気持ちを我慢して、例年の春の芽吹く頃のみずき野周辺の田園を思い起こし綴り続けましょう。

下記の写真は2年前に撮ったものです。ムナグロは春に渡ってくるシギ・チドリの代表ですが、年々目撃されにくく、伊奈地区(四季の野鳥の探索区域)では見かけましたが、去年はキョウジョウシギやキアジシギは見られず仕舞でした。



田んぼに水張りが始まる頃、伊奈高校付近で飛翔するムナグロの群れ



胸元が黒いムナグロ



赤い足のキョウジョウシギ



1本足で休むキアジシギ

農作業が盛んになって、たんぼの土が掘り起こされ、水が張られる4月中頃になると、ミズやドジョウ、ザリガニなど鳥達の餌が豊富に潜む市之代・伊奈町地区の水田に野鳥を追いかけて自転車を走らせます。



水溜りで水浴びするハシブトカラス(左)とムクドリ(右)  
田起こし頃よく見られる光景

巣材にする泥運びをする  
つがいのツバメ



市之代周辺のアマサギ。アマサギは田起こしや水張りの頃  
5~8羽の群れでドジョウをついばむ

田植え後の水田で  
コチドリ

田園の周辺では、  
その他さまざまな  
鳥の活動も観察  
できます。



苗が育つ田んぼのアオサギ

畔のゴイサギ(左)とダイサギ(右)



バッタを捕獲した  
サシバが農道の電  
線で一休み。バッ  
タは求婚相手への  
プレゼント?それと  
も子育て中?



休耕田のアシ  
原では、大き  
く真っ赤な口  
を開けて縄張  
り宣言。1日中  
さえずり続け  
るオオヨシキリ



カワラヒワ(手前)とスズメが  
仲良く混浴？



母を待つツバメの雛



水田の雑草刈りする  
カルガモ



農業用水路で訓練を受けるカルガモ 3 兄弟



梅雨時の第2調整池



第1調整池で夕陽を浴びるつがいのカルガモ



水張りを終えた夕暮れの市之代付近の水田

コロナ禍が早急に収まり、  
外出自粛・禁止が速やかに  
解けて、ここに綴った鳥達  
の活動や、陽暮れの夕陽が  
池や水田にまばゆく映える  
光景を心ゆくまで楽しめるよ  
うになることを祈って次回を  
迎えたいと思います。

3丁目のブラリーマン・サトー